

小児病棟で「笑顔のパス」

3選手、ボール使い交流

サッカーJ3ギラヴァンツ北九州の3選手が、産業医科大病院（八幡西区）の小児科病棟を訪れ、入院中の子どもたちにサイン入りユニホームをプレゼントする

産業医科大病院

るなどして交流した。子どもたちは選手たちのリフティング技に目を奪われ、ボールをパスし合うと笑顔を見せていた。

10月31日、同病院を訪問したのは東廉太・吉原楓人、

「パワーももらった」

本實快斗の3選手。プレイルームで自己紹介後、ユニホームを渡してそれぞれにサインし、子どもたちからはお礼に折り紙で作られた花束や寄せ書きが入ったメッセージカードなどが贈られた。3選手はボールを使ってリフティングを披露し、子どもたちと軽くパスをし合って楽しんだ。

小児科病棟には現在、血液疾患や手術後の観察などで17人が入院。数日で退院できる子もいれば、数回に

わたって半年〜10カ月の期間を治療のために過ごす子もいる。悪化した中耳炎で10日間近く入院中の小学1年の女児（7）「小倉北区」は「（選手の）背が高かった。花束を渡すときにちょっと緊張した」と話した。東選手は「病院にこうして来るのは初めて。みんな思ったより元気で、こちらがパワーをもらった」と話した。周囲では保護者たちが見守り、「（サイン入り）ユニホームを着て試合を見に行かないとね」と子どもたちに話しかけていた。

（座親伸吾）



①産業医科大病院の小児科病棟を訪問したギラヴァンツ北九州の3選手（奥の3人）。入院中の子どもたちと通路でサッカーボールをパスし合って、つかの間の交流を楽しんだ②ユニホームを着て、ギラヴァンツ北九州の選手たちと記念撮影する入院中の子どもたち

（掲載について西日本新聞社許諾済、無断転載（コピー、スマートフォン等での撮影）禁止）